



ゆづりは

堺市立図書館だより

第5巻 第2号 (通巻16号)
 発行日 平成22年9月10日
 編集・発行 堺市立中央図書館
 〒590-0801 堺市堺区大仙中町18-1
 電話 072(244)3811
 Fax 072(244)3321
 URL <http://www.lib-sakai.jp/>

当館所蔵 貴重な資料群をひもとく ～堺市が80年大切にしてきた市史史料～

今年、昭和5(1930)年に『堺市史』が刊行されて80年目にあたります。『堺市史』第8巻の「堺市史編纂沿革」に、刊行までの経過が詳しく書かれています。それによると、明治36(1903)年の第5回内国勸業博覧会が大阪で開かれるのを契機に、『堺史』の編纂を決定。『堺大観』稿本7冊と数十冊の資料としてまとめられましたが、諸事情により刊行中止、頓挫していました。

その20年後、大正12(1923)年の関東大震災で、多くの貴重な資料が焼失したことを機に、堺市も資料を永久に失くしてしまうことへの危機感を募らせます。こうした紆余曲折を経て、再度の市史編纂の続行を決めたのでした。



京都帝国大学の三浦周行教授に監修を『堺市史』第2巻所収「南蛮屏風」図嘱託、資料の採訪を開始し、市民からの情報提供を呼びかけ、市内のみならず全国各地を調査し、資料収集にあたりました。完成した『堺市史』は「地方史誌の白眉」と高い評価を得ました。

中央図書館では刊行80年を記念して下記の催しを行います。

●「堺市史」刊行80年記念講演会

「堺と中世都市 - 「黄金の日」^{はる} 遙か - 」

10月10日(日)午後2時～4時、中央図書館で講演会を行います。講師は大阪市立大学大学院教授の仁木宏氏。申し込みは9月29日(水)午前10時から電話または来館にて受け付けます。先着80人。参加は無料です。

●記念資料展

10月9日(土)～28日(木)
 中央図書館1階ロビーにおいて、「堺市史完成絵葉書」や「堺市史史料」の絵図など、貴重資料を展示。図録パンフレットも無料配布します。

●ブックフェア

10月1日(金)～31日(日)
 中央図書館2階閲覧室で、『堺市史』関連資料や、地方史や他市の歴史にまつわる資料を紹介するブックフェアを行います。

目次

当館所蔵 貴重な資料群をひもとく	…1
図書館わくわくパレード 10夏	…2
私の“とっておきの一冊” その13	…2
堺かるた いろはの「わ」	…3
この本で解決! ～運動会の季節～	…3
司書のイチ押し! 『樹のことばと石の封印』	…4
年末年始の臨時休館のお知らせ	…4
堺市立図書館電話番号一覧	…4



ゆづりは

とは・・・

中央図書館の正面玄関前に、堺生まれの詩人、河井醉茗氏の歌碑があります。

「年ごとに ゆづりゆづりて 譲り葉の ゆづりしあとに また新しく」

この歌にちなみ、年月を経て、世代を越えても、次々に新しい情報をお伝えできるように、堺市立図書館だよりに「ゆづりは」と名づけました。

(河井醉茗氏については、「ゆづりは」通巻第1号にご紹介しています。)



図書館わくわくパレード `10夏

思い出になったかな？図書館の行事

今年も市内の各図書館では、おはなし大会やおたのしみ会、手づくり教室、科学実験、宿題支援などのイベントを行いました。



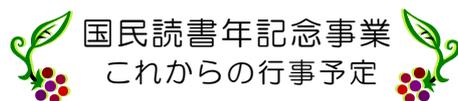
すてきな写真絵本ができた！



実験を、よーく見ててください！



宿題にとりくみ中！



★自分史講座

文章の書き方を学び、思い出を自分史にまとめる、全4回の講座です。

日時・10月13、27日、11月10、24日(各水) 午後1時~3時

講師・佐久間慶子氏(大阪文学協会理事)

申込受付・9月15日(水) 午前10時~先着30人

会場・申込 南図書館 294-0123

★聞いて楽しむ本の世界

~大人のための朗読会~

ぜひいたく時間をお楽しみください。

日時・9月26日(日) 午前10時30分~、午後1時30分~ 各回30人

出演・音訳グループひばり

会場・美原図書館 369-1166

図書館に研修に来られていた市内の小学校の先生方に、「クラスの子どもたちにもいつか読んでもらえたら」という1冊を教えてくださいました。バラエティに富んだリストアップになりました。

わたしの“とっておきの一冊”
その13

「となりのしげちゃん」 星川ひろ子 小学館

障害を持つ子どもと、どのように関わろうか、どんな言葉をかけようかと頭ではばかり考え、実際うまく接することができていなかった私。障害のあるなしに関わらず、ひとりの大切な友だちとして、しげちゃんに興味を持ち、しげちゃんに関わったあらたちゃんの姿を見て、自分の心の中の壁を感じました。「心のバリアフリー」をあらたちゃんから教えられました。

「雪の結晶ノート」 マーク・カッシーノ、ジョン・ネルソン あすなろ書房

雪の結晶ができて消えていくまでには色々な困難があります。時間の長さは違うけどまるで人の一生のようです。雪の結晶は、全て違う形や大きさで、同じものは一つもありません。そして一つ一つが短い時を精一杯輝いているのです。私たち人間と雪の結晶に、こんな共通点があったなんて、とても驚き感動しました。

「いま生きているという冒険」 石川直樹 理論社

著者の写真家、石川直樹さんは、旅をテーマに文章や写真の作品を私たちに届けてくれる冒険家でもあります。彼は、広い海、寒い大地、最高峰の山頂、熱気球から見た空など、あらゆる世界を旅して地球を見つめています。彼が見た世界に私たちも、いま生きているんだ、という実感を与えてくれる本です。

最後にインタビューで「何がいちばん大切ですか？」と質問されて、彼はこう答えます。

「それでも生きること、じゃないでしょうか。」
タイトルとともに強く印象に残る言葉でした。

まだ難しいかな、読んでくれるかな、と言いながら、選んでくださった先生方、ありがとうございます。



堺かるた - いろはの「わ」
「わが国ではじめて須恵器陶のむら」

須恵器（すえき）は陶器とも書きます。日本で初めて須恵器が作られたのは堺です。現在の南区、泉北ニュータウンあたりに「陶（すえ）のむら」がありました。千五百年ほど前、固い土器を焼く技術が朝鮮から伝えられて以来、約八十年間「陶のむら」は、陶器を作っていた日本唯一の場所といわれ、全国各地へ陶器を送っていました。発掘された陶器は、主に大蓮（おおはす）公園内の「堺市立泉北すえむら資料館」で見ることができます。



わが国ではじめて須恵器陶のむら

この本で解決！
～運動会の季節～

9月や10月は、運動会を行う学校も多いのではないのでしょうか。そこで、運動会や体育祭に関連する質問を集めてみました。

日本の運動会の歴史を知りたい

『図説明治事物起源事典』（柏書房）によると、明治7年に海軍兵学寮で開かれた「競闘遊戯会」が日本の運動会のはじまりとされています。走り幅跳びなど18種目がおこなわれ、ステッキやかばんなどの賞品もでる大会だったようです。その後東京大学などで開催され、集団訓練の奨励もあって小学校に普及していったようです。『学校ことはじめ事典』（小学館）には、日本女子大学校で開かれた運動会の写真も掲載されています。



体育祭で標語を作りたい

『標語・スローガンの事典』（東京堂出版）には、交通安全や新聞週間など様々な標語が集められて参考になります。また『「標語」の上手な作り方』（東洋経済新報社）では標語の実例のほかに、標語作りの手順や、「語感をよくする」「命令口調は抵抗感があるので避ける」などのポイントが解説されています。「問いかける」「韻を踏む」「繰り返す」「名詞止め」など、色々なタイプのものがあるようです。

来賓によべられたが挨拶の例文はあるか

運動会で来賓として挨拶する場合にはあいさつやスピーチの本が参考になります。『PTAのあいさつ・司会進行・文書の事典』（法研）など、学校行事に絞った本もあります。あいさつの本については「図書館で解決!? 第18号 あいさつ・スピーチの本」で詳しく紹介しています。

運動会で選手宣誓をするので例文を知りたい

『小学校 新しい運動会の工夫』（文教書院）には、1年生による選手宣誓の例文と、一人ではなく全員で言う「約束のことば」の例文があります。『運動会・イベントアイディアシリーズ 3ダンス・応援パフォーマンス集』（汐文社）には応援団誓いの言葉として宣誓の例文があります。

他にも応援手拍子のやりかたや、エールの交換の例文もあるので、応援団の参考にもなります。



司書のイチ押し!

『樹のことばと石の封印』 富安陽子／著・大庭賢哉／絵 偕成社

著者の富安陽子は、神話や昔話をモチーフに数々の傑作を生み出してきた大阪在住の作家だが、今回は和泉の伝説「信太妻」に着想を得て、ユーモアあふれるエンターテインメントを作り上げた。

『樹のことばと石の封印』は、「シノダ!」のシリーズの第二作。冒険あり、なぞ解きあり、ひねりのきいたストーリーは、老若男女が楽しめるファンタジーとなっている。

まずは「シノダ!」の登場人物の紹介から一。

主人公の信田一家は、一見、仲の良い普通の家族だが、じつはママの正体はキツネである。そしてユイ、タクミ、モエの3人の子どもたちは、それぞれ、“風の耳”“時の目”“魂よせの口”というキツネ一族の血をひくふしぎな能力を授かっている。

ママのキツネ一族の親戚も変わり者ぞろい。いつもやっかいごとを持ち込んでみんなを災難にまきこむ夜叉丸おじさんや、突然現れては不吉な予言を告げるホギおばさんなど、個性的な人物が脇役として登場する。

「シノダ!」はこの信田一家に巻き起こるさまざまな災難やふしぎなできごとのお話である。

『樹のことばと石の封印』を少し紹介すると…

システム入替による休館のおしらせ

堺市立図書館では、より使いやすく、便利な機能を持った、新しい図書館情報システムの稼働を予定しています。新しい図書館情報システムへのデータ移行や、端末機の入替を実施するために、**平成22年12月29日(水)～平成23年1月7日(金)**の間、全館休館をいたします。この間は、インターネット予約や蔵書検索も停止いたします。

利用者の皆様には大変ご不便をおかけしますが、どうぞご理解くださいますよう、お願い申し上げます。

ユイたちはある日、子ども部屋にある古い和だんすのひきだしから、金色のドングリがみのる別の世界にひきこまれてしまった。そこに住む人々は石に姿をかえられていた。ドングリの木のことばにしたがって、ユイたちはその世界の住人テトや‘石の工’とともに、山の上に住むお館様のところに向かう。ところがそこにいたのは一。

住人を石にかえたオロチをやっつけることはできるのか、石にかえられた住人はもとの姿にもどることができるのか。ハラハラドキドキの連続のうちにお話は展開していく。

この現代版「信太妻」ともいえる一連の作品は誰にでも安心してすすめられる児童書だ。海外のファンタジーが人気だが、日本にもこんなすばらしい児童文学作品があることを知っていただきたい。(S)

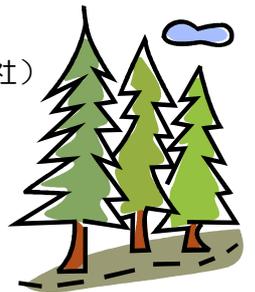
「シノダ!」シリーズ (偕成社)

『チビ竜と魔法の実』

『鏡の中の秘密の池』

『魔物の森のふしぎな夜』

『時のかなたの人魚の島』



堺市立図書館電話番号一覧

音声応答サービス	280-0415
中央図書館	244-3811
くすのき号	244-3811
堺市駅前分館	222-0140
中図書館	270-8140
東百舌鳥分館	234-9600
東図書館	235-1345
初芝分館	286-0071
西図書館	271-2032
南図書館	294-0123
梅分館	296-0025
美木多分館	296-2111
北図書館	258-6850
美原図書館	369-1166
人権ふれあいセンター図書ホール	245-2534
青少年センター図書室	228-6331